



1日から二学期が始まりました。今年の夏も暑かったですね。また、新型コロナウイルス感染症の拡大で健康管理にも気を遣われたことと思います。久しぶりの登園の子どもが多く、「幼稚園、行きたくないなあ・・・」と不安そうな表情で登園するかと思いきや、ほとんどの子どもが「おはようございます！」と元気よく挨拶して登園してきました。どの子ども背が伸び、少しお兄さんお姉さんらしくなっているように感じました。ある一人の女の子のお母さんが「うちの子は、今日幼稚園に行くのを本当に楽しみにしていました。『笑顔で行かなくっちゃ』と言って準備していましたよ」と教えてくださいました。幼稚園での活動や、友達に会えるのを楽しみにしている気持ちが感じられ、またそういう気持ちを言葉で表現しようとする素直な育ちを嬉しく思いました。私たち教職員は、こうした子どもたち一人一人の気持ちを丁寧に受け止め、二学期もたくさんの楽しい活動と学びができるよう支えていきたいと思っています。未だ新型コロナウイルス感染拡大は収まらず、保護者の方にはまたいろいろとご協力いただくことが多いと思います。どうぞ二学期もよろしくお願いいたします。

二学期初日の様子です

遊戯室で友達との距離を取り、マスク着用で短時間始業式をしました。久しぶりの集会でしたが、どのクラスも上手に並んだり、話を聞いたりできました。特に年長児は、話す人の顔を見て聞いたり、お辞儀をしっかりとしたりと、良い態度の子どもが多くみられました。「夏休み、楽しかったよ」「お手伝いもしたよ」「遅くまで起きてテレビはみてないよ」「あっ、24時間テレビは見たわ(爆笑)」・・・と、夏休みの出来事を話してくれました。

夏休みはどうしても生活のリズムが崩れやすく、初日はあくびをしたり、身の回りの始末のやり方を忘れていたりしがちですが、そんな様子は見られませんでした。始業式後に、各クラスで夏休みの思い出の話を発表していました。年少児は、先生の近くで「おばあちゃんの家へ行った」などと話していました。年中児は、「花火見たよ。ドーンって大きかったよ」などと、その時の情景や気持ちなども添えて話していました。年長児は、「海へ行ったよ」と話す子に、まわりで聞いている子が「泳いだの?」「もしかしてサーフィン?」などと質問し「足をつけた」という答えに「へえー」とうなづいていました。各学年それぞれ同じような内容の発表でしたが、発達の違いが見られた一場面でした。

その後、雨も止んでいるし、降園までの時間園庭でのびのびと遊びました。年少児は、滑り台やブランコの遊具で遊んだり、草むらで虫探しを楽しみました。年中児は、大好きな生き物探しをし、コオロギやカエルなどを見つけて大喜びでした。年長児は、夏休み中に練習したのでしょうか、上手になった縄跳びを繰り返し楽しんだり、昨年の年長児の姿を思い出して、リレーをしたりしました。まずはトラックが必要と、ホワイトラインで3人くらいか線を引きました。きれいな楕円形にはほど遠いですが、自分達でやりたいという気持ちをもった初めてのリレーにはこれで満足だったようです。3色で人数をわけ、バトンをもって走り、次の人にバトンをパスして一生懸命走っていました。どうもバトンパスの時に渡す人がわからなくなったようで「ゼッケンがあるといい」という意見にみんな賛成し、それぞれの色のゼッケンをつけて「よーいドン」と走り出した方向は、1回目と逆方向。見ていた私は?でしたが、リレーをしたい友達が集まって一緒に走って楽しかったようです。担任は、近くで応援したり道具の準備はしていましたが、「それ、逆方向だよ」「誰に渡していいかわかる?」などと、急いでリレーを形にしようとはしませんでした。走ってみて、困ったり、こんな風にしたら?と、子ども達から意見が出た時に一緒に考え、今年のあお組さんのリレーをみんなで創っていくのだと思います。トラブルもあると思います。そんな中で学んだり、友達と力を合わせたりしながら、カいっばいリレーに向かうであろうあお組の子どもたちが今から楽しみです。



「自分の荷物を自分で持ってくる5歳児」



「朝の身支度を思い出しながらする3歳児」



「夏休み中にナスビが大きくなったと喜ぶ4歳児」



「幼稚園の滑り台、楽しいね」 3歳児



「虫はどこにいるかなあ・・・」 4歳児



「去年の年長さんみたいにリレーをしよう」 5歳児